

## 2023年度 学校評価

### 1. 目的

学校教育活動の全般において、その質の向上に向けて改善策を講じる事、また学校の設置目的を達成するため行う。

### 2. 自己評価実施要領

1) 実施方法：「学校運営評価尺度」を用い、全教職員（14名）を対象に各自が自己評価したものを集計した。「学校運営評価尺度」は、Ⅰ. 学校運営、Ⅱ. 教育課程・教育活動、Ⅲ. 入学・卒業対策、Ⅳ. 学生生活への支援、Ⅴ. 管理運営・財政、Ⅵ. 施設設備、Ⅶ. 教職員の育成、Ⅷ. 広報・地域活動の8カテゴリー161項目の5段階順位尺度から成っている。

#### 2) 実施時期

2024年3月8日～19日

#### 3) 実施対象

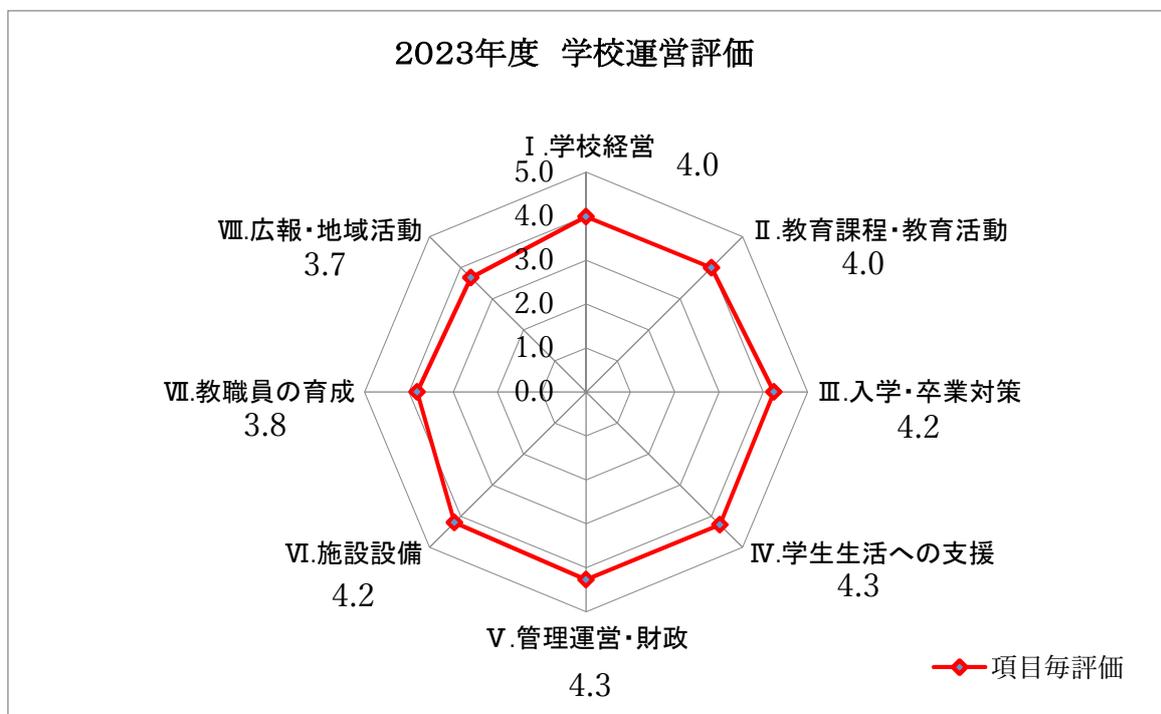
教職員14名、提出率100%

#### 4) 評価

##### ①項目毎の内訳

評価項目	Ⅰ. 学校経営	Ⅱ. 教育課程・活動	Ⅲ. 入学・卒業対策	Ⅳ. 学生生活への支援	Ⅴ. 管理運営・財政	Ⅵ. 施設設備	Ⅶ. 教職員の育成	Ⅷ. 広報・地域活動
2023年度	4.0	4.0	4.2	4.3	4.3	4.2	3.8	3.7

##### ②項目ごとの比較



### 3. 自己評価結果

#### I 「学校経営」

大学の中長期事業計画に沿って本校の部門目標（BSC）を作成し、各教員がそれぞれの役割を認識し目標達成に向け学校運営に参画した。教職員の業務整理は一部のみとなった。教員と事務との役割分担の明確化が図れるよう必要なマニュアル作成をおこない教職員間の連携を強化していく。

#### II 「教育課程・教育活動」

新カリキュラムの運用2年目が無事に終了した。学生からの授業評価アンケート結果は、3.6～4.3（5段階評価）であり、科目によりばらつきもあるため、内容や方法については改善点を検討し充実を図っていく。臨地実習は、臨床側の協力により100%臨地での実施ができ学生の満足度は4.3（5段階評価）と高い。今後も実習環境が充実し学生の学びが豊かなものになるよう臨床側との連携を強化していく。

#### III 「入学・卒業対策」

第113回看護師国家試験合格率13年連続100%、就職率100%であった。学生募集活動として50校の高校に出向きPRを行った結果、オープンキャンパスの参加者と指定校推薦受験者は増加した。一般選考受験者は減少したが入学生48名を確保することができた。2025年度入学者選考を見直し、定員50名の確保と共に質の高い学生が確保できるよう更なる募集活動の充実に努める。

#### IV 「学生生活への支援」

学生の経済的・精神的なサポートは学年責任者を中心に個別に実施し、必要に応じて保護者面談をおこない学生が安心して学業に専念できるよう支援した。学生相談窓口の情報提供、大学内の臨床心理士と今後も連携を図り、学生が安心して学修に専念できる環境づくりを心がける。

#### V 「管理運営・財政」

犯罪防止・交通安全講習会は、各学年に実施した。災害時避難訓練は、3学年合同で実施し、避難経路の確認や2次対応の実地訓練を通して、自分たちにできることを考えるなど災害時の意識を高めることができた。

ハラスメント防止対策として、3校共通のハラスメント防止ガイドラインを策定し、学生便覧に掲載した。学生に対して学校としての取り組みを説明し、相談窓口の案内等を提示した。教員は大学のハラスメント防止研修会に全員で参加し、ハラスメント防止に対しての意識を高めた。今後もハラスメント防止に努める。

#### VI 「施設整備」

インターネット環境、視聴覚教材の充実は、学生の学びを保障するとともに質を高めることができた。大学のシミュレーションセンターの協力により、今年もVR演習を実施することができ豊かな学びへと繋がっている。今後、大学と協働し新たなVR教材の作成を行う予定である。eテキストの導入に向けて、Wi-Fi環境の拡大を行い更なるICT教育の充実を図る。

#### VII 「教員の育成」

研修会や学会への参加回数は、平均1.8回であり、伝達講習を実施した。慈恵の各専門学校間では、ZOOMによる各専門領域の交流会の他に、他校の授業参観を実施した。情報交換だけでなく自校や自身の課題発見につながる良い機会となった。今後も様々な機会を通してお互いを刺激し高め合える職場風土の醸成を図る。

## VIII「広報・地域活動」

広報活動としてガイドブックのリニューアル、ホームページの充実、高校訪問の実施、進路相談会の積極的な参加をおこない入学生を確保することができた。地域活動として、地域の健康事業への参加、高校主催の進路ガイダンスや模擬授業を実施した。また、JANPセンター（地域連携看護学実践研究センター）発信のボランティアに学生と教員が参加した。

### 4. 学校関係者評価結果

2名の学校関係評価者より頂いた意見を以下にまとめる。

- 1) 新任教員の育成など通常業務に加えて負担がかかる中、教育課程を編成・実施したことは評価できる。一方、一部の教員に過度に負荷がかかることは避けなければならない。業務の方法の標準化、業務量の平準化を期待したい。
- 2) オンデマンドによる授業が一定の割合を占めているが、学生が配信を繰り返し試聴することで理解が深まるメリットはあるものの、コミュニケーションが一方通行になりがちであるため留意されたい。
- 3) スクールカウンセラーに相談することをためらう学生もいる。スクールカウンセラーが日常的に来校し学生と挨拶を交わし顔見知りとなり話しかけやすい雰囲気醸成し敷居を下げる効果がある。
- 4) 災害発生時の危機管理として、マニュアル等の整備をおこない危機に備える必要がある。
- 5) 募集活動の一環として、50校を訪問された教職員の努力を評価したい。高校訪問の際の説明資料を標準化し誰が訪問しても一定の水準で説明ができるようにするなど、学生募集に取り組むことも必要となる。喫緊の課題である2025年度の学生募集においては、他の専門学校にはない、13年連続の看護師国家試験の100%の合格率、系列の大学病院へほぼ100%就職できる点を、看護師を志す高校生に訴求されたい。

### 5. 最終評価結果

学校運営に関する自己評価、学校関係者評価を受け、最終評価として検討すべき課題は以下の通りである。

- 1) 教職員の業務整理と役割分担の明確化
- 2) 学習内容・学習方法の精選および教育力の充実
- 3) ICT教育の拡充に向けた環境整備
- 4) 危機管理マニュアルの整備
- 5) 慈恵の強みを生かした募集活動の充実